

平成22年度施策評価表

(平成21年度の振り返り、総括)

作成日 平成 22 年 4 月 14 日

施策No.	6	施策名	観光の振興
主管課名	商工観光課	主管課長名	関口 斎
関係課名	企画政策課、農林水産課、都市計画課、生涯学習・スポーツ課、埋没林博物館、水族博物館		

施策の目的 【対象】	対象指標名	単位	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	目標年度 (年度)
			①市内を訪れる観光客(首都圏・関西圏・中京圏の住民が中心的なターゲット)	①圏域人口	千人	86,381	86,381	86,511

施策の目的 【意図】	(対象①) ①多くの人を訪れている。 ②消費している。 ③満足してもらおう。また来てもらおう。	成果指標名	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	23年度目標	目標値
		①観光客入込数	千人	1,344	1,482	1,614	1,650	1,700	
		②宿泊客数	千人	146	219	215	220	225	
		③来訪者の満足度	%	未把握	未把握	未把握			

成果指標設定の考え方	<p>①観光客入込数を把握することにより、どれだけ訪れてもらったかが分かるので、これを成果指標とした。</p> <p>②宿泊客数を把握することによって、どれだけ観光客が滞在したかが分かるので、これを成果指標とした。</p> <p>③来訪者が訪れて満足し、また訪れたいかどうかを聞くことで、満足度が把握できるので、これを成果指標とした。</p>
------------	---

成果指標の把握方法 (算定式等)	<p>①商工観光課で調査した観光客入込数と、これを基に推計した数字を使用。</p> <p>②商工観光課の市内宿泊者数調査と、これを基に推計した数字を使用。</p> <p>③来訪者へのアンケート調査を行い調査する。</p> <p>※把握方法ではない。(考え方と同じ記載です。)</p>
---------------------	---

施策の成果向上に向けての役割分担	市民	・観光客をもてなしの心で迎えていただく。
	市	・関係機関と連携して、観光客の誘客や観光資源の開発とPRを行う。 ・市民のもてなしの心の醸成を図るため、啓発に努める。
	その他	・(事業所)観光客の誘客や観光資源の開発とPRを一体的に行う。

施策No.	6	施策名	観光の振興
平成21年度の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること。)		
	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述。)		
	◆魚津市の観光客入込数は、観光イベントの充実などにより、年々順調に増加してきた。 ◆本市の従来からの観光資源である三大奇観のほか、魚津港の「みなとオアシス」の認定をはじめ、魚津港とその周辺資源を生かした「みなとまちづくり」事業や魚津の食のブランド化(魚津寒ハギ)、新たな観光資源として整備が進められている「洞杉」などにより観光客の増加が図られてきたものと考えられる。 ◆今年度から新たに「富山湾・黒部峡谷・越中」に「いかわ観光圏事業」が開始され、広域での観光資源の有効活用とPRの相乗効果による新たな観光客の増が見込まれた。		
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述。)		
	◆新川地域三市二町で構成する新川地域観光開発協議会における観光客入込数は、人口の減少と景気変動により近年ほぼ横ばいで推移してきた。新川地域では、黒部峡谷への入込観光客数により地域全体の観光客数が大きく左右されることとなる。 ◆近隣の二市二町とも観光客数はほぼ横ばいであるが、宿泊者数で減少傾向にある。		
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述。)		
	◆「海の駅蜃気楼」や「みなとオアシス」の認定、米騒動の発祥地ほかの資源を生かした「みなとまちづくり」プロジェクト事業の推進など、本市の地域資源を生かした観光事業を推進しており、市民にも目に見える形で観光事業が進展している。 ◆本市にある豊かな自然(洞杉群など)や豊かな食文化(魚、果実など)などまだまだ観光資源として生かすべきものが存在しており、これからの資源を観光資源として生かしていくことが市民から求められている。		
	2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取組み内容を中心に記述。)		
	【入込客数増加対策】旅行者への観客誘致宣伝。観光ポスターを一新し主要駅等へ配布。「市場で朝食」等新たな観光客誘致に向けた事業を開発した。新たに新川三市二町で観光庁による「いかわ観光圏」の認定を受け広域での観光資源を活用した滞在型観光に努めた。 【観光イベント支援】観光イベント支援として、じゃんとい魚津まつり、夕日のページェント、戦国のろし祭り等を積極的に支援。 【水族館・埋没林】新たな展示企画活動を展開し、誘客活動に努める。 【物産売上支援】魚津産品のブランド化の推進(寒ハギ等)。首都圏、関西圏、中京圏での物販販売の実施を行う。 【満足度向上対策】観光地案内説明版の設置。宿泊施設案内。魚津駅前飲食店マップの作成。観光ボランティアの育成。		
	3. 施策の課題認識及び平成22年度の取り組み状況(予定) (平成21年度末で残った課題、既に平成22年度に取り組んでいること、又は取り組みの予定について記述。)		
【観光入込客数増加対策】21年4月に国交省の認定を得た「富山湾・黒部峡谷・越中」に「いかわ観光圏協議会」(三市二町を中心に構成)での新たな事業を行っていく。(・「市場で朝食」キャンペーン事業、・連泊者専用「手荷物運搬サービス」事業、・いかわ案内人養成事業、・産業観光シャトルバスの運行、・観光圏認定案内所の整備等) 【物産品売上対策支援】昨年から引き続き、首都圏、関西圏、中京圏での物産宣伝活動の強化。新たな魚津ブランド品の開発支援、販路拡大支援。			

施策の トータル コスト	区 分	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	23年度計画	24年度計画
	A. 本施策を構成する事務事業の数	本数	12	13	14			
B. 事業費 (事務事業の事業費合計)	千円	34,278	181,913	60,060				
C. 事務事業に要する年間総時間	時間	5,200	6,760	6,420				
D. 人件費 (C×1時間あたりの平均人件費)	千円	21,372	28,426	26,996				
E. トータルコスト (B+D)	千円	55,650	210,339	87,056	0	0	0	
効率性 指 標	対象(受益者)1単位あたり、若しくは市民1人あたりの施策の	円	734	3,952	1,318			
	F. 事業費 (定義式 : B/人口)	円	457	617	593			
	G. 人件費 (定義式 : D/人口)	円	1,191	4,569	1,911			
	H. トータルコスト (定義式 : E/人口)	円						